

# “ニヶ領用水” 図書館で調べてみませんか！

川崎市立図書館ホームページ

<http://www.library.city.kawasaki.jp/>

携帯電話用インターネット対応のホームページ

<http://www.library.city.kawasaki.jp/m/>

QRコードを読み取ってモバイル・携帯電話用ホームページへ

簡単にアクセスできます。

(QRコード読取対応のカメラ付携帯電話が必要です。)



(久地円筒分水：高津区)

## [ニヶ領用水とは]

ニヶ領用水は、多摩川を水源にして川崎市多摩区から川崎区まで流れていた、全長32キロの用水路です。用水が江戸時代の稲毛領、川崎領のニヶ領にまたがって流れることから「ニヶ領用水」とよばれ、その流れはほぼ現在の市域を形作っています。

神奈川県下でも最も古い用水のひとつで、川崎市のすみずみまで命の水をおくり、たくさんの田畑を潤した大切な用水です。

現在は、農業用水、工業用水としてのほか、水辺は市民の憩いの場として見直されてきています。

ニヶ領用水についてはたくさん本、記事が出ています。

ニヶ領用水についてどのような本があるのか主なものを紹介しましょう。



©ニヶ領用水竣工400年記念事業実行委員会



### ★調べるための道しるべ ～パスファインダーとは～

あるトピックを調べるために役立つ資料を、分かりやすく紹介したもの（パスファインダー）を図書館では作成しています。このほか探せない本や、わからないことがあったら気軽に川崎市立図書館登録・相談カウンターまでおたずねください。

## 図書館で持っている本（資料）の紹介

ニヶ領用水は、測量が始まった 1597 年から現在にいたるまでおよそ 400 年間の歴史があります。その間には、ニヶ領用水をめぐって、用水開削、維持のための人々の苦労や、水が送られたことによって新田の開発などの恩恵というように様々なできごとがありました。

### ■全体を知る

#### ◆『ニヶ領用水400年 よみがえる水と緑』

（長島 保／監修 神奈川新聞社 1999 年刊）

ニヶ領用水の歴史についてこれまでの研究の成果を踏まえて書かれています。また用水保全に活躍する現代のボランティアの様子まで書かれています。ニヶ領用水の全体を知るなら、まずこの 1 冊をごらんください。

#### ◆『ニヶ領用水知絵図』

（ナウスジーアシステム研究所／編集 川崎市土木局河川部 1995 年刊）

江戸時代後期から明治時代初期の水路網がのっており、ニヶ領用水が利用された様子が手にとるようにわかります。

#### ◆『ニヶ領用水』（川崎歴史ガイド）（川崎市文化財団／編 1987 年刊）

市内各地（稲田堤から渋川まで）のニヶ領用水関連の場所などを紹介したパンフレットです。

#### ◆『やさしい川崎の歴史』（小塚 光治／編者 川崎歴史研究会 1970 年刊）

（※第 4 版 [1983 年刊]、第 5 版 [1990 年刊] もあります。）

生徒（小学校中学年以上）向けにかかれた川崎の歴史の本です。本文中「Ⅶ 江戸時代の川崎」の中でニヶ領用水について解説しています。

#### ◆『かわさき』（小学校副読本）

（川崎市総合教育センター／編集 川崎市教育委員会 \*毎年刊行）

小学校の社会科の副読本です。ニヶ領用水について図入りで解説しています。

（ニヶ領用水については 1998 年版以後紹介内容が少し変わりました。）

#### ◆『川崎の町名』

（日本地名研究所／編集 川崎市 1991 年刊）

川崎市内各区ごとの「町名の沿革と由来」および「区のならたち」、新編武蔵風土記稿から現在までの「町村名の推移」などの紹介されています。

#### ◆『川崎地名辞典 上・下巻』

（日本地名研究所／編集 川崎市 2004 年刊）

地名などを通じて、土地の歴史を紹介する資料です。ニヶ領用水については堀名なども挙げられています。（上巻：川崎・幸・中原・高津区、下巻：宮前・多摩・麻生区）



（ニヶ領用水 台和橋付近：多摩区）



(ニヶ領用水 一本杵橋付近：多摩区)

## ■歴史・近世

慶長2年(1597)、徳川家康の命により、代官小泉次太夫は用水の建設を始めました。工事は困難を極めましたが、慶長16年(1611)約14年間をかけてニヶ領用水を完成させました。60か村、2007町(約2000ヘクタール)の水田に利用されました。

時代が100年余過ぎると、ニヶ領用水は堀が狭まるなど改修が必要な状態でした。

川崎宿の名主などを務めた田中丘隅は、農村や宿場を観察し治政や社会の状況を詳細につづり幕政への提言をした書『民間省要』を出し、享保8年(1723)、江戸幕府から支配勘定格方に登用され、さらにニヶ領用水の<sup>かわよげごふしん</sup>川除御普請御用を命じられました。

### ◆『人づくり風土記 14 ふるさとの人と知恵。神奈川』

(加藤 秀俊／〔ほか〕編纂 農山漁村文化協会 1987年刊)

ニヶ領用水について小泉次太夫、田中丘隅の活躍を通じて書かれています。

### ◆『富士山宝永大爆発』

(永原 慶二／著 集英社 2002年刊)

田中丘隅はニヶ領用水だけでなく、富士山宝永大爆発で荒れ果てた酒匂川の改修でも活躍しています。(第9章田中丘隅と文命堤)

### ◆『川崎市史 通史編 2 近世』

(川崎市／編 川崎市 1994年刊)

川崎市の歴史を詳しく知るには、川崎市史をご活用下さい。

## ■歴史・近代

ニヶ領用水は飲み水としても使われました。また近代に入り、農業用水としてだけでなく、工業用水としても利用されるようになりました。1941年には、市内各所に水がいきわたるように高津区久地に円筒分水が作られました。

### ◆『川崎市の水道』

(川崎市小学校社会科教育研究会／編集 川崎市水道局 \*毎年発行)

小学校の副読本です。ニヶ領用水を飲み水として売った水屋の記述があります。

### ◆『水恩の人 多摩川治水と平賀栄治』

(小林 孝雄／著 出版文化社 2000年刊)

多摩川治水、高津区久地の円筒分水、ニヶ領用水の工業用水としての利用、汚染対策などに活躍した平賀栄治を詳しく追っています。



小泉次太夫

## ■現在のすがた

多くを埋められたり、一時は汚染のひどかったニヶ領用水ですが、現在では水辺として再生され、市民の憩いの場になっています。

### ◆『ニヶ領用水と円筒分水 一時のランドスケープ展 報告書』 Vol. 1、Vol. 2

(川崎のまち資源を考える会／編 川崎のまち資源を考える会 2005年刊)

\*年表が掲載されています。

\*各小学校が出した副読本や、市内散策の案内などにも多く紹介されています。

## 新聞記事・インターネット

新聞記事やインターネットでは最新の情報がわかります。ニヶ領用水にかかわる催しやボランティアの動きなどを伝えます。

### ◆『新聞雑誌記事索引』(川崎市議会事務局／編・発行)

川崎市に関わる新聞記事について調べられます。詳しくは登録・相談カウンターへ。

## 図書館ホームページでニヶ領用水の本を探す

図書館ホームページ・蔵書検索画面でニヶ領用水の本を探すときは、「書名」および「件名」に次のキーワードを入れて検索してみてください。

「書名」=「ニヶ領用水」

「件名」=「ニヶ領用水」「小泉次太夫」「田中休愚(田中丘隅)」「河川一川崎市」

### ◆ニヶ領用水を紹介したホームページ

#### ●かわさきの文化財(川崎市教育委員会)

[www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/ptop1.htm](http://www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/ptop1.htm)

#### ●ニヶ領せせらぎ館(NPO法人多摩川エコミュージアム)

[www.seseragikan.com/](http://www.seseragikan.com/)



## 関係のある施設・・・「ニヶ領せせらぎ館」

国土交通省の京浜工事事務所がニヶ領用水宿河原堰の管理所(河川管理施設)の一部を地域住民に開放した宿河原堰情報センター。多摩川やニヶ領用水の自然と歴史に関する資料や宿河原堰の模型などが展示してあります。

■場所 川崎市多摩区宿河原1-5-1

■交通案内 小田急・JR「登戸駅」多摩川口から徒歩10分、JR宿河原駅から徒歩15分

■Tel 044-922-1025

■開館時間 10:00~16:00 ※6~9月の土・日・祝日=17:00まで

■休館日 毎週月曜日(祝日の場合、その翌日)



読書のまちかわさき

■発行：川崎市立図書館 2010年7月

(資料についての問合せ) 川崎市立中原図書館 Tel: 044-722-4932